

# 山を守る。森を守る。 森林環境税

使いみちが  
広がりました！



県民みんなが  
サポーター。

第2期  実施中

高知県

平成22年4月



山を守る。森を守る。  
森林環境税

約  
84%  
森林率  
全国1位

山を守る。森を守る。森林環境税は  
2期目に取り組んでいます。

現在の森林・林業を取り巻く状況は、木材価格の低迷によって林業経営が困難となり、人工林の手入れが行きとどかなくなっています。そのため、荒廃森林が増え、私たちの生活環境にも悪影響が出始めています。このような中、高知県は、平成15年に全国に先駆けて「森林環境税」を導入し、県民みなさんに緑のサポーターになっていただき、県民みんなで支える森づくりを進めてきました。

森林環境税は平成15年のスタートから平成22年で8年目を迎えます。2期目の森林環境税は、CO<sub>2</sub>の森林吸収源を確保するとともに森林の荒廃を予防するといった観点から、人工林の若齢林を集中的に整備しています。また、「こうち山の日」の取り組みや、小中学校などの行う森林環境学習、森林保全ボランティア活動の支援など、森林への理解と関わりを深める県民の皆さんの活動を引き続き支援しています。

約  
65%  
人工林率  
全国2位



## 森林環境税のこれまで (平成15年～平成21年)



1 東京ドーム1,900個分の森林を間伐しました。(約9,010ha)  
ダム上流域など公益上重要な森林の間伐と、CO<sub>2</sub>吸収量の多い若齢林の間伐を集中的に行ってきました。



2 県民参加の森づくりを推進してきました。  
「こうち山の日(11月11日)」の取り組みをはじめ、県民の皆さんに森林や山に対する関心を持っていただくこと、森林や山を守る活動に参加していただくことなどを推進してきました。小中学校など児童・生徒の皆さんが行う間伐などの体験や、森林環境学習をはじめ、森林保全ボランティア活動など延べ約18万人の県民の皆さんが森林や山を守る活動に参加しました。



# 森林環境税の使いみちが拡がりました

間伐などの森林整備や、こうち山の日の活動など、これまでの取り組みに加え、平成22年度からは、学校林の整備や森林保全ボランティアへの支援の強化、県産木材を多用した木の香るまちづくり、さらには県内CO2クレジットの認証支援など、県民の皆さんに森林への理解と関わりを深めていただくための取り組みをさらに進めます。

## POINT 1

### 森林環境教育の強化

森林環境学習の機会をさらに広げるため、公立小中学校と公立高等学校の学校林の整備を、森林保全ボランティアと県民の皆さんの手で進めます。

また、幼少期の子供たちが自然体験できるような環境づくりを推進するため、「森のようちえん」の整備や、小中学校の総合学習への支援など、次代を担う子供たちの育成を図ります。



森で学ぼう！



## POINT 2

### 森林保全ボランティアの支援強化

目標を上回るペースで増加している森林保全ボランティアのさらなる技術力のアップや、間伐材の利用増を期待して、ボランティアに林内作業車・移動式製材機などの木材利用機械の導入を支援します。



みんなの森を守ろう！

## POINT 3

### 木の香るまちづくりへの支援

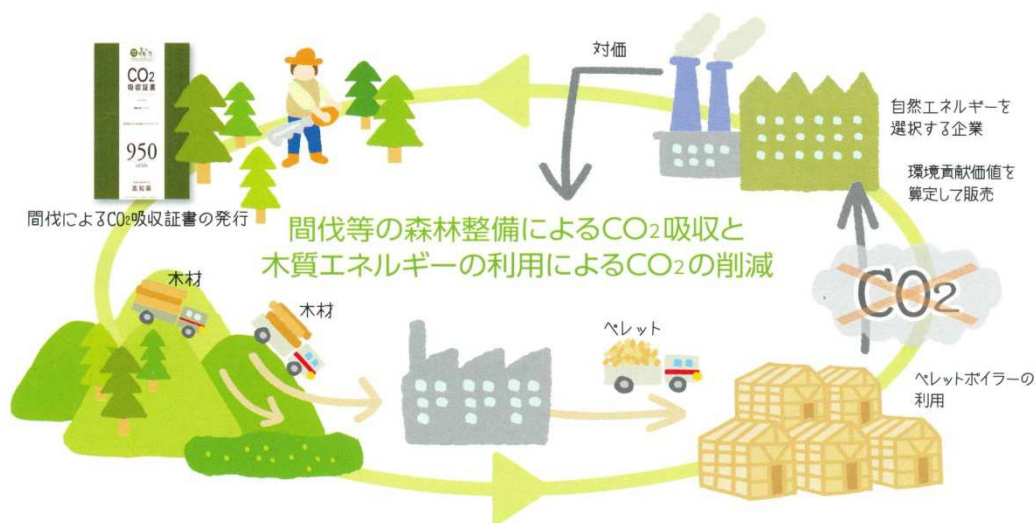
公共的施設の木造・木質化や木製ガードレールなど、県民の皆さんに目に見える形で県産木材を使い、木の香るまちづくりを進めます。



## POINT 4

### 森林によるCO2吸収や、石油・石炭から木質バイオマスへの燃料転換によるCO2排出削減への支援

高知県内において、間伐等の森林整備による「森林吸収量」や、石油・石炭を木質バイオマスへ燃料転換することによる「排出削減量」を算定して取引することの仕組み作りや実施に対して支援します。



# 森林環境税 平成22年度の使いみち。

県民の皆さんには山への関心を  
持っていただくとともに、  
これからも森林環境税に対しての  
ご理解、ご協力をお願いします。



直接森林環境の保全を進める事業		担当課	予算額(千円)	基金運営委員会開催		担当課	予算額(千円)
<b>1</b>	CO <sub>2</sub> 吸収や水源かん養など 公益的機能を増進する森づくりの推進		112,286	<b>1</b>	基金運営委員会開催		1,632
	(1) みどりの環境整備支援事業 (2) 生き生きこうちの森づくり推進事業 (3) 森林保全ボランティア活動推進事業 (4) CO <sub>2</sub> 吸収プログラム認証等事業	林業改革課 林業環境政策課 林業環境政策課 環境共生課	85,000 8,000 8,535 10,751	(1)	開催経費	林業環境政策課	1,632

県民の森林への理解と関わりを深め広げる事業		担当課	予算額(千円)	持続可能な山の暮らしを支える森づくりへの支援		担当課	予算額(千円)
<b>1</b>	将来を担う子ども達などへの 森林環境教育の拡大・深化の支援		31,370	<b>3</b>	持続可能な山の暮らしを支える森づくりへの支援		36,643
	(1) 山の学習総合支援事業 (2) 幼少期における感動体験プログラムモデル事業 (3) 森林環境保全事業 (4) 人づくり推進事業 (5) 地球温暖化対策推進事業	林業環境政策課 生涯学習課 高等学校課 森づくり推進課 環境共生課	23,476 4,185 1,244 1,022 1,443	(1)	木の香るまちづくり事業 (2) グリーン熟証書制度パイロット事業	木材産業課 木材産業課	31,000 5,643
<b>2</b>	森川海の連携、交流など県民の 皆さんの主体的な活動の支援		16,500	<b>4</b>	広報事業		5,044
	(1) こうち山の日推進事業 (2) こうち山の日県民参加支援事業委託料 (3) 希少野生植物食害防止対策事業	林業環境政策課 林業環境政策課 環境共生課	12,000 1,500 3,000	(1)	広報経費など	林業環境政策課	5,044

高知の山や森に関する情報が盛りだくさん!!



森林環境税に  
に関する情報誌  
「mamori」

クーポン  
付き!!

森林環境税の取り組みや、森の施設  
などを紹介しています。森林・林業  
に関する質問にもお答えしています。  
最寄りの役場・量販店・銀行などで  
入手できます。



森の文化・自然体験  
紹介webサイト  
「こうち森のささやき」

「森の達人」や「緑の遊び場」  
など森へと案内してくれるヒト・  
モノ情報満載。「高知緑の  
MAP」がとても便利です。

<http://www.moritomidori.com/sasayaki/index.html>

山を守る。森を守る。  
**森林環境税**

第2期 **実施中**

11月11日は、こうち山の日。



「森林環境税」の使いみちやこのパンフレットの内容に関するお問い合わせは

**高知県林業振興・環境部林業環境政策課**

〒780-8570 高知市丸ノ内一丁目7番52号

Tel 088-821-4586 Fax 088-821-4576

E-mail 030101@ken.pref.kochi.lg.jp

高知県ホームページ <http://www.pref.kochi.lg.jp/>



# 木の響

せりのうた  
Summer 2008

# 知音

## 木々の音

シリーズ「もっと森へ」

木を伐り  
森を生かす、  
土佐の  
山師がゆく。

## 王子製紙グループは環境・社会への貢献を目指します

王子製紙グループは、今般の古紙配合率乖離問題に対して深くお詫びするとともに、皆様の信頼を回復すべく、下記の環境・社会貢献策を推進いたします。なにとぞご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

### 1. 古紙利用の促進

技術開発、新たな設備投資によって、これまで利用の進んでいない機密古紙や低質古紙等の利用を促進します。具体的には年間4万トンの未利用古紙の利用増を図ります。また、新聞古紙の供給不安に対処すべく、比較的安定調達可能な雑誌古紙をより有効に利用するための技術開発、設備改善を進め、年間1万7千トンの雑誌古紙の利用増に取り組みます。

### 2. 国内森林の一層の活性化

間伐を推進するため次のことを検討します。①間伐材の伐採から流通や利用までを地域で総合的に実行するための林野庁等との間伐モデル事業の実施。②採算の取れる間伐法確立等を目的とした、社有林内における間伐モデル山林の設定。また、間伐モデル山林における事業実施の中で、林業技術者養成プログラムを検討します。

### 3. 国内社有林における生物多様性の保全の強化

新たに生産林と区別した生物多様性保全林の設定を検討し、環境教育や学術研究等のフィールドとして活用します。

### 4. 海外植林の推進

地球温暖化対策や途上国の地域発展にも貢献している海外

植林事業。今後、一層の植林面積拡大に努めます（当面の目標面積30万ヘクタール）。

### 5. 森林認証の取得と森林認証材の利用促進

現在、国内社有林すべてと海外植林11ヶ所中5カ所において森林認証を取得済みですが、残るすべての海外植林についても認証取得を進めます。また、森林認証材の利用促進を強化します。具体的には、輸入チップの森林認証材比率を2006年度実績38%から2011年度65%に、その内、自社林認証材比率を6%から16%に高めることを目標に取り組みます。

### 6. 地球温暖化防止対策の推進

今後も省エネ、燃料転換を推進し化石CO<sub>2</sub>排出削減を図ります。具体的には、①新エネルギーボイラー増設により年間37万トンの削減、②地道な省エネによりCO<sub>2</sub>年間3万7千トンの削減に努めます。また、マダガスカル共和国において新方式吸収源CDMの事業化を進めています。

### 7. 環境教育の拡充

子供たちが自然の中で遊び、考えるために、社有林で開催している「王子の森・自然学校」。2007年度3カ所だった開催地を、今後さらに増やす予定です。

### 8. グラウンドワーク活動の推進

(財)日本グラウンドワーク協会加盟企業第一号として、地域の清掃・美化活動や割りばし回収などに取り組んでおり、今後もより積極的に活動を推進します。

Vol.46  
SUMMER 2008  
Contents

- 01 森の寓話 第二話 | 河童の雨乞い
- 03 シリーズ「もっと森へ」第十話 | 木を伐り森を生かす、土佐の山師がゆく。
- 11 紙の力2 | 運ぶ、作る、使う 紙から紙ができるまで
- 15 森の恵み、森のごちそう2 | 木苺
- 17 100年コラム Volume6 | 時の先に見える 新たな力の源
- 22 地球に木を植える Vol.6 | 持続可能な森林経営が、木の持つ価値のすべてを引き出す。
- 27 諸国「水の町」巡り | 遊佐（山形県遊佐町）
- 29 森でひろったこぼれ話 02 | トップがいなければ丸くなる？
- 30 王子製紙グループは環境・社会への貢献を目指します

森の響 No.46  
ISSN 1342-8330  
2008年夏号

発行日 2008年6月20日  
発行所 王子製紙株式会社 広報室  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5  
TEL.03-3563-4523  
http://www.ojpaper.co.jp/

◎発行人 篠田和久  
◎編集人 矢田雅之  
◎制作 株式会社電通  
株式会社フォーランナー

◎編集スタッフ  
株式会社クリエイティブブランド  
◎アートディレクション 陣内高尚  
◎製版 株式会社本州プロセスセンター  
◎印刷 笹徳印刷株式会社  
◎資料提供・協力者一覧（敬称略）  
京都大学 吉川 運教授  
東京電機大学 西方正司教授  
東京工業大学 山崎陽太郎教授  
独立行政法人森林総合研究所  
バイオマス研究領域 大原誠資領域長  
地球環境産業技術研究機構  
藤岡祐一 首席研究員・村井 重夫 首席研究員  
時空工房  
アプロフォトエージェンシー  
キュウ・フォト・インターナショナル  
カメラマン 富田文雄

### 「森の響」編集後記(46号)

新緑の季節になりました。山を遠くから見ると、この季節には日々変化があります。緑色と一言で表現しても、白みがかった緑、赤みがかった緑、どちらも新緑の色です。その新緑の中に花々や蕾が加わり、柔らかく優しい情緒を醸し出しています。近くで見れば、様々な活力のある木々も異なって見え、趣があります。

山頂に雪がまだ残る日光白根山や男体山が見える、弊社の社有林に先日入山し、新緑の美しさに心落ちました。2004年より毎夏開校している「王子の森・自然学校」ですが、この度日光でも開校しようと思いに動きました。児童の感受性の育成など環境教育を通じた社会貢献をさらに拡大すべく、この夏は、昨年の3校開催から2校増やして北海道校・日光校・富士校・広島校・宮崎校の5校を開校します。ご興味のある方は、弊社広報室にご一報頂ければ幸いです。

●本誌に関するご意見、ご要望は「森の響」編集部まで、読者アンケートハガキあるいはメールでお寄せください。  
MAIL: morinouta@ojpaper.co.jp

※前号の訂正「森の響・秋号NO.45」に誤りがありました。森で拾ったこぼれ話(29ページ)「どちらかの花粉を、もう一つの雄しべにつけること」は「どちらかの花粉を、もう一つの雌しべにつけること」でした。お詫びして、訂正いたします。